


# 新型コロナウイルス感染症による留学生交流への影響

## INBOUND -日本への留学生-

312,214人  
(2019年5月現在)  279,597人  
(2020年5月現在) **-10.4%**

## OUTBOUND -日本からの留学生-

115,146人  
(2018年度)  107,346人  
(2019年度) **-6.8%**

## 現在の状況

- 昨年夏以降、外国人留学生の新規入国が順次再開していたが、本年1月の緊急事態宣言の発出を受け、一時停止。3月の宣言解除後も、**当分の間、「特段の事情」を除き本措置を継続。**
- 国費留学生等については「特段の事情」として、必要な防疫措置を行うことを条件に**段階的に入国を再開**（5月12日～）。
- **2020年11月以降、海外大学の学位取得を目指す日本人留学生**について、学生が渡航先の防疫措置を確認していること等を条件として**JASSO奨学金支援を再開。**
- **2021年6月通知で、大学間交流協定に基づく1年間（実際の派遣期間9か月以上）の留学プログラム再開**について、大学等における学生の安全確保等の留意事項を周知。同通知にて、「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」や大学間交流協定プログラム等による留学についても8月渡航分から支援を再開。
- 2021年6月15日以降、「**留学予定者ワクチン接種支援事業**」を開始し、対象者に対し、大学拠点接種の枠組みの中で接種を支援し、必要に応じて英語版接種記録保有証明を発行。

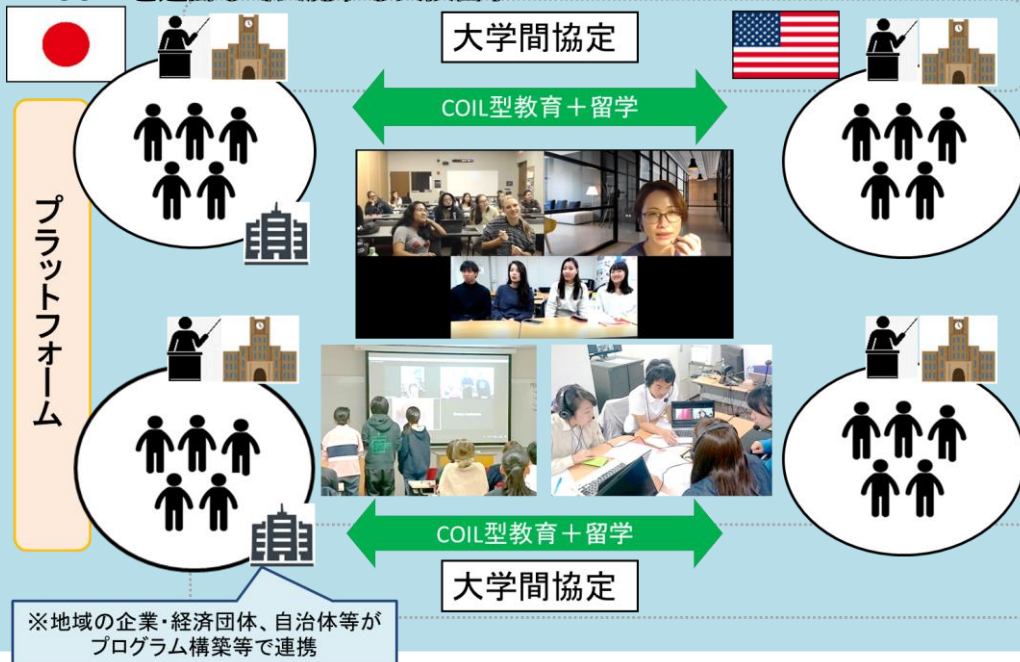
## 事業概要・目的（補助期間:2018-2022〈5年間〉）

2021年度予算額 187百万円（前年度予算額 219百万円）  
 （単価：18,225千円×9件、プラットフォーム33,030千円×1件）

- オンラインを活用した双方向の国際協働学習（COIL※）方式に基づく、我が国の大学と米国の大学との大学間交流を支援。  
 ※COIL（Collaborative Online International Learning）
- 米国教育協議会（ACE: American Council on Education）との協力による実施。
- 採択件数：10件（①千葉大学、②東京大学、③東京外国語大学（国際基督教大学と連携）、④東京藝術大学、⑤鹿児島大学、⑥琉球大学、⑦大阪市立大学、⑧上智大学（お茶の水女子大学、静岡県立大学と連携）、⑨南山大学、⑩関西大学）

## 事業イメージ

- 単位認定、成績評価などの質保証を伴う先導的な国際教育プログラムの開発・実施
  - ・ COIL型協働学修プログラムやオンライン教材の開発
  - ・ 学修プログラム・教材を共有するためのプラットフォーム管理・運営
  - ・ COILと連動して実施する交換留学



## 教育手法

- 日米の学生が留学開始前からオンラインで英語・日本語で事前に交流。帰国後もオンラインで交流を継続。
- 協働プロジェクトの目標達成のため、国境を越えて協力し、他国のアプローチや視点、文化の違いを理解。
- それぞれ自国にしながら、オンラインでの講義やゼミ交流により、幅広い知識を共に身に付ける機会を提供。
- ゼミ単位や少人数クラス、大教室など、多様な人数・目的に応じた交流が可能。

## 期待される効果

- 地理的条件を問わず、国際協働学習機会の提供が可能。
- チームワークや協働による異文化適応力を強化。
- 国際的な教育機会を享受する学生が拡大するとともに、海外相手国学生とのネットワークの継続的確保が可能。
- 留学効果が増大・持続する相乗効果の期待。

## 成果

- ・ 海外大学との連携強化
- ・ アクティブ・ラーニングへの転換等質の向上
- ・ 国際協働教育活動を通じた教員の質向上

## 大学

- ・ 効率的な国際教育機会の提供
- ・ 大学全体の国際化推進
- ・ 地方グローバル人材の育成（地方創生）

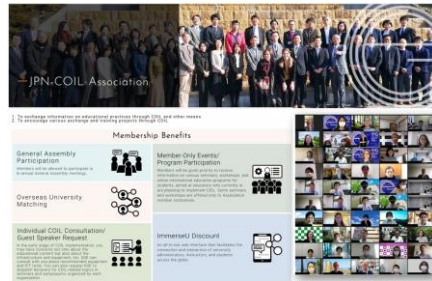
## 学生

グローバル時代に必要な資質・能力の向上

交流学生数  
 （2018-2020実績）  
 派遣 1,286名  
 受入 1,275名

## 関西大学

- ◆ プラットフォーム校である関西大学主催のCOILに関するウェビナーやオンラインワークショップ参加者が2,548名と、2019年度から10倍以上増加。
- ◆ COIL実践に関する各種情報交換や研修・交流事業などを実施するJPN-COIL協議会について、正会員38校、賛助会員7団体、個人会員9名、国際会員5大学が加盟。
- ◆ 在京米国大使館による財政支援の下、**米国教育協議会(ACE)と関西大学のグローバル教育イノベーション推進機構(IIGE)が提携し、日米の大学26校がそれぞれペアを組み、COIL型教育を行う教職員向けオンライントレーニングを実施。**



## 東京藝術大学

- ◆ 連携先の南カリフォルニア大学の学生と、5チームの共同制作チームを構成し、約1年に及ぶ長期間のゲーム制作プログラムを実施。
- ◆ 世界水準、最新研究・情報をもとに、学生へのフィードバックを専用アプリを使って日常的に行い、日米の教員間で、綿密に計画・構造化された共同プロジェクトの進捗状況を可視化して把握するなど、オンラインの特性を最大限に生かした教育を実現。
- ◆ 成果発表のゲームコース展は、オンラインとリアル会場のハイブリッドにより2021年3月に開催し、約2,000人のオンライン参加者を集めた。一方で5月にはUSCの「GAME EXPO」にも出品し、米国の学生はもとより、ゲーム教育や産業の関係者たちに大きくアピールした。



VR 技術活用の実践場面



## 上智大学(お茶の水女子大学・静岡県立大学と連携)

- ◆ お茶の水女子大学、静岡県立大学と連携し、「包摂的リーダーシップ」をテーマとしたCOIL+留学プログラムを開催。1学期間日米4大学によるCOILを行った後、短期集中のオンライン短期研修を実施し、日本、アジア、米国における多様性とリーダーシップについて学んだ。
- ◆ 静岡県立大学と連携し、米国だけでなく、モンゴルやタイの大学と、看護教育に関するオンライン合同プログラムを実施。カリキュラムや国家試験の兼ね合いから**留学が困難な看護学生に、グローバルな体験の機会を提供。**



## 東京外国語大学(国際基督教大学と連携)

- ◆ 南カリフォルニア大学と連携し、課題解決型のインターンシップのCOIL型授業をオンラインにより実施。日本のグローバル企業6社に対し、日米学生混成グループ1つにつき1社を担当する形で、ビジネスコミュニケーションの日米差等、各企業が抱える問題への解決方法を提案。

